

請 求 書

記入例

平成 年 月 日

(あて先) 松山市長

日付は記入しないでください。

申請書の振込先『口座名義人』の方の住所、氏名、口座番号等をご記入ください。印鑑は申請書の振込先『口座名義人』の方の申請者氏名の欄に押印したものと同一印鑑で押印してください。

住 所

松山市一番町一丁目1番

氏 名 松山 太郎



当請求金額を次の預金口座にお振り込み下さい。

申請書兼同意書の申請額(合計額 ※下記【参考】を御参照ください)を記入してください。

金融機関名	本店
松山 銀行	支店
(カナ) マツヤマ タロウ	
口座名義人名	
(漢字) 松山 太郎	
普通預金	当座預金
第 1 2 3 4 5 6 7 号	

下記の金額請求いたします。

金 額	億	百	拾	万	千	百	拾	円	内訳下記のとおり
		¥	1	5	0	0	0	0	

ただし

平成 年度 不妊に悩む方への特定治療支援助成金

【参考】

請求額の算定

例1) 初回助成申請の特定不妊治療費が治療内容の上限額と上乗せ上限額を足した上限額よりも低い場合

- ①初回治療でかかった総額：29万円
- ②特定不妊治療上限額：15万円＋上乗せ上限額15万円＝30万円
- ②の特定不妊治療上限額より①の総額が低い→助成額：29万円を助成

例2) 男性不妊治療と特定不妊治療がある場合

男性不妊治療費と特定不妊治療費は別々に上限額を比較して、男性不妊治療費と特定不妊治療費のそれぞれの助成額を算出し、助成額となります。

■男性不妊治療費の総額が13万円、特定不妊治療費の総額が35万円の場合。

- ①男性不妊治療の上限額：15万円 ⇒ 総額：13万円
- ②特定不妊治療の上限額：15万円 ⇒ 総額：35万円
- ①の男性不妊治療は上限額よりも総額の方が低い
- ②の特定不妊治療は総額よりも上限額の方が低い
- 助成額：13万円＋15万円＝28万円を助成

※口座名義人(カナ)は、通帳等で確認のうえ、正確に記入して下さい。

濁点の有無、「オ」と「ヲ」の違いなどにより、振込できない場合があります。